会議議事録

|  |  |
| --- | --- |
| 事業名 | 令和５年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（２）教職員の資質能力向上の推進① 効果的な教育成果の公開方法等に関する支援体制づくりの推進 |
| 代表校 | 一般社団法人全国専門学校教育研究会 |

|  |  |
| --- | --- |
| 会議名 | 第4回産学連携員育成講座開発委員会 |
| 開催日時 | 令和5年12月18日（水）17:00～19:00 |
| 場所 | オンライン |
| 出席者 | 監督者等：岡村　慎一、成底　敏委　　員：柳田　祐大、森川　和哉、藤井　貴志、土井　宏美、　　　　　林　透　　　　　　　　　　　　 　　　　　　計9名請負業者：飯塚　正成　　　　　　　　　　　　　　　　　計1名　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　合計10名 |
| 議題等 | 〇ヒアリング調査に関する情報収集（柳田）・今回は、工業分野に絞って調査を実施した。・産学連携の時間は、概ね600時間程度。・連携形式は、学内連携が外部連携の2種類がある。・企業団体側から連携してくる学校はうまく行っているが、専門学校側から話を持っていくケースは、拡大に関しては難しい。・満足度は5校が満足しているが、1校は満足していなかった。・コスト面に関しては、不安がある。特に情報系などは難しい。・資質要件は、専門分野の知識はほぼ全学校が重要と回答している。・技能としては、コミュニケーションスキルが重要である。・態度に関しても分野別のバラツキが多い。・産学連携に関しては、担当の教員を置いている学校が多かった。・授業評価に関しては、学生からのアンケートが主体。学校によっては企業からフィードバックを貰っている学校もある。・評価基準に関しては、3校が出来ていて、3校は出来ていない。・改善策としては、学内連携を強化しているところは、カリキュラムへの反映が主体。・卒業生との連携なども重要。・必要な資質能力の支援について、一番多かったのは全専研の研修への参加。・自分自身で大学等で学んだ内容を授業に転嫁して取り組んでいるケースなどもあった。・必要な資質能力への支援として重要なことは、企業と知り合うための機会が必要。この辺りを個人が担当するのではなく、学校として取り組むことが重要。・産学連携担当者の評価は、6校中5校は評価していない。・外部連携を推進する際のツールは、Slackやスプレッドシート等も利用されていた。・インターンシップに参加した企業に対するアプローチをどのようにつなげていくのかが重要。・求人票だけをみても企業の具体的な事業内容を把握できないので、実際に授業をしてもらうことも重要。・実際の仕事を体験することで社会での評価等を体験する。この点はデザインの学校だから傾向が出てきていると思う。・教職員が持っていないスキルを身に着けさせることが重要。----------------------意見交換・連携先の選定などで行政などの支援を得ることも重要。（森川）・現状の連携をいかに引き継いでいくのかが重要。（土井）・行政に対しても専門学校の産学連携パターンを伝えていけばよいと思います。（柳田）・職実課程で学んだことをどのように実体験に変えていくための連携が多かった気がする。評価についてどのようにすり合わせていくのかが気になる。（岡村）・500～600時間を企業連携に費やしているのは意外であった。（岡村）・コミュニケーションスキルとはどのようなことを行っているのかが気になった。（林）・企業の活動にどのようなメリットがあったのかが気になった。（林）・企業のことも学習者のことも理解している人材を育成することが重要。（林）〇産学連携推進講座の方向性について（柳田）・今回ヒアリングで見えたこととして今回の回答だけを感が合えても多種多様な学科からいろいろな意見が出てきてしまったので、そこを集約していくことが難しいところ。・今までの研修やOJTのやり方では、人材育成はできない。・連携によって何を身に着けるのかを明確にすることが重要。・組織としての運営や継続性へのアプローチは重要。・今回のプログラム開発は、産学連携の基礎的なことを学ぶことが重要ではないかと思っている。・今回のプログラムを学習した者が各校内で講師となり、伝承していくようなプログラムにしていくことを目標としたい。・ヒアリングの成功事例をシナリオ化していくことも考えたい。・インプットに関しては、動画の視聴等で学んでいただき、対面ではワークをしていくような形式で考えたい。--------------------意見交換・ゴール設定を定めて、学習を設定すればよいのではないかと考える。ただ、各校が単独でできるかが問題となる。複数校で集合して行っていく形が現実的ではないか。受講時間に関しては、3,6,12時間のパッケージが使われるケースが多いような気がする。全専研でIDについては継続的にやっている。この延長線上で学習評価や非認知能力等を作っていく予定としている。（岡村）・実践者としての振り返りや組織としてのマネジメントについてはどう思うか。（柳田）・産学連携を推進する方を育成するという観点で話を聞いていたが、産学連携とは何をやっていたら成立するのか？インプットとして知識を身に着けさせるのは産学連携とは考えにくい。演習や実習に限るのかを考える必要がある。従って、産学連携の定義をいちど見直してみた方がいい。産学連携がわからない学校は、そのフローチャートやロードマップなども入れ込めると良い気がする。　（成底）・実践者の視点で考えることが良いと思う。が、企業と学校の垣根をこえて人づくりをしていく観点があるのではないか。組織マネジメントのところは、企業、学校、学習者のトライアングルをベースに考えることが重要と考える。（林）・教員と学習者が追体験することなども重要だと思う。（柳田）・産学連携は、専門学校の強みだと考える。林さんの視点等も重要。（岡村）〇日程・第4回委員会は令和6年2月8日（木）10～12時　京都YIC |
| 配布資料 | ・第4回産学連携推進育成講座開発委員会資料 |

以上